

# InstallShield 11.5

2006 年 01 月 20 日

## はじめに

InstallShield® Windows 11.5 は、高品質の Windows Installer、InstallScript™、およびモバイル デバイス インストールを作成するための強力かつ柔軟なツールです。InstallShield® Windows 11.5 では、次のマイクロソフトの最新ツールがサポートされています：Visual Studio 2005、.NET 2.0、ClickOnce、および MSBuild。今回のリリースに搭載されている新しい InstallShield® Collaboration プラグインを利用して、開発者は、ソフトウェアのプログラミングをしながら、インストールのコーディングおよびテストを行うことができます。データベース インストール、Try and Buy/プロダクト アクティベーション機能、アプリケーション アップデート、Web サービスも同様にサポートされています。数々の賞を獲得した InstallShield のテクノロジーに基づいてビルドされた InstallShield Windows 11.5 は、インストール開発者がインストールの信頼度を高め、開発時間を短縮し、開発をより効率的に行うことができる業界最先端のインストール作成ソリューションです。

InstallShield 11.5 の登場により、InstallShield 製品は、次の 2 つに分かれました：InstallShield 11.5 (Windows およびモバイル ベースのインストール プロジェクト用) および InstallShield MultiPlatform 11.5 (Universal ベースのインストール プロジェクト用)。このように分けられたことで、Windows および MultiPlatform ユーザー固有のニーズにより適確に答えることができるようになりました。インストール プロジェクトの作成に、既に InstallShield 11、10.5、または X を使用されている場合、InstallShield 11.5 プロジェクトは、Windows およびモバイル ベースのインストール プロジェクトとのみ下位互換性があります。DevStudio、Developer、Professional、および Express 製品で作成されたインストール プロジェクトに関しては、すべて下位互換性があります。InstallShield 11.5 は、InstallShield MultiPlatform 4 または 5 で作成されたインストール プロジェクトとは下位互換性はありません。これらのバージョンで作成されたプロジェクトを最新バージョンへ移行する場合、InstallShield MultiPlatform 11.5 へのアップグレードまたは購入が必要になります。

InstallShield Windows 11.5 のリリースに伴い、マクロヴィジョンは、アプリケーションおよびインストール開発者が開発プロセス全体を通して共同作業 (コラボレーション) ができる斬新で画期的な方法、[InstallShield Collaboration](#) も紹介します。

[トップに戻る](#)

## システム要件

### InstallShield 搭載のシステムの場合

#### プロセッサ



Pentium III クラスの PC (500 MHz 以上を推奨)

**RAM**

256 MB の RAM (512 MB 推奨)

**ハードディスク**

500 MB の空き領域

**ディスプレイ**

1024 x 768 (XGA) 以上の解像度

**オペレーティング システム**

Windows 2000 SP3 以降、Windows XP、または Windows Server 2003

**ブラウザ**

Microsoft Internet Explorer 5.01 (IE 5.5 以降を推奨)

**権限**

システム上での管理者権限

**マウス**

Microsoft IntelliMouse またはその他の互換性のあるポインティング デバイス

**ターゲット システム (デスクトップ コンピュータ) の場合**

InstallShield は、デスクトップ システムおよびモバイル デバイスをサポートしています。

**デスクトップ コンピュータ**

各インストーラ エンジンの最小システム要件は、以下のとおりです。

インストーラ エンジン	オペレーティング システムおよび他の要件
Windows Installer 1.1	Windows 95 以降
Windows Installer 1.2	Windows 95 以降
Windows Installer 2.0	Windows 95 以降
Windows Installer 3.0	Windows 2000 SP3 以降、Windows Server 2003
Windows Installer 3.1	Windows 2000 SP3 以降、Windows Server 2003

InstallScript	Windows 95 以降
Compact	Windows 95 以降 Internet Explorer 3.02 以降
ClickOnce	Windows 98 以降 .NET Framework 2.0

## ターゲット システム (モバイル デバイス) の場合

InstallShield では、ActiveSync や他のデスクトップ コンポーネントを使用しない、デバイスへ直接行うインストールがサポートされています。

InstallShield では、また、モバイル デバイス インストールをデスクトップ インストールへ追加することもできます。

### Windows Mobile デバイスの要件

InstallShield では、多数の Windows Mobile プラットフォームおよびプロセッサがサポートされています。以下は、Windows Mobile プラットフォームの一覧です：

- Handheld PC
- Handheld PC 2000
- Handheld PC Pro
- Palm-size PC 2.01
- Palm-size PC 2.11
- Pocket PC
- Pocket PC 2002
- Pocket PC 2003
- Smartphone 2002
- Smartphone 2003
- Windows CE .NET

この一覧にないプラットフォームも、InstallShield はサポートしています。ただし、条件設定ができないという点でのみ、一覧の中のプラットフォームと異なります。

InstallShield では、次の Windows Mobile プロセッサがサポートされています。

- ARM720
- ARM820
- ARM920
- Common Executable Format (CEF)
- Hitachi SH3
- Hitachi SH3E

- Hitachi SH4
- i486
- i586
- i686
- MIPS R2000
- MIPS R3000
- MIPS R4000
- SHx SH3
- SHx SH4
- StrongARM-XScale

## Palm OS デバイスの要件

InstallShield では、Palm OS 3.5 以降がサポートされています。

## Windows Mobile デバイス インストールのデスクトップ要件

Windows Mobile デバイスにアプリケーションをインストールするために使用されるデスクトップ コンピュータの要件は以下のとおりです：

- Windows CE Services 2.x または ActiveSync 3.x
- 管理者特権

## Palm OS デバイス インストールのデスクトップ要件

Palm HotSync は、Palm OS デバイスにアプリケーションをインストールするために使用されるデスクトップ コンピュータに必要です。

[トップに戻る](#)

## 参考情報

### InstallShield Collaboration について

InstallShield 11.5 をインストールするとき、お使いの PC に Visual Studio .NET 2002、Visual Studio .NET 2003 または Visual Studio 2005 がある場合、InstallShield Collaboration for Visual Studio も同時にインストールされます。InstallShield 11.5 と共に発送された InstallShield Collaboration for Visual Studio のライセンスは、InstallShield 11.5 がないマシンでは使用することができません。InstallShield Collaboration for Visual Studio だけを購入された場合、どこにでもインストールすることができます。

### サンプル .dim ファイルとチュートリアル

サンプル .dim ファイルは、InstallShield に含まれています。既定のインストール場所は、C:\Program Files\Macrovision\IS11.5\Samples\DIMReferenceTutorial です。これらのファイルを参照するチュートリアルを表示するには、[HelpNet](#) で提供されている InstallShield 11.5 ヘルプ ライブラリをご覧ください。

[トップに戻る](#)

## 新機能

### Visual Studio 2005 サポート

Visual Studio 2005 を完全サポートしている InstallShield は、.NET ソフトウェア開発者のための究極のセットアップ ソリューションです。InstallShield では、製品作成にお使いの Visual Studio インターフェイスをそのまま使用してインストールを作成することができます。このため、.NET インストールの作成をより効率的に行うことができます。InstallShield のすべてのビューは、Visual Studio .NET ソリューション エクスプローラ内に個別のウィンドウで表示されるため、スクロールする必要は無く、並列表示オプションも用意されています。

### .NET 2.0 Framework サポート (MSI)

InstallShield では今回より、Windows Installer インストールに .NET Framework 2.0 をインストールする、もしくは、インストールする要件を含めるオプションがサポートされています。 .NET 1.0 および 1.1 もまだ同様にサポートされています。

### Microsoft SQL Server 2005 のサポート

InstallShield のみが、マイクロソフトの 次世代データ マネジメントおよび分析ソフトウェアである SQL Server 2005 を完全サポートしています。

SQL 分散管理オブジェクト (SQL-DMO) のバージョン 2005 は、InstallShield に含まれています。これにより、マシンに SQL Server 2005 がインストールされていなくても、インストールのデータベース インポート ウィザードを使用して SQL Server 2005 に接続することができます。また、データベース インポート ウィザード は、Microsoft SQL Server 2005 で紹介された新しい XML データ タイプもサポートしています。

### Microsoft ビルド エンジン (MSBuild) サポート

InstallShield は、.NET Framework 2.0 に含まれている Microsoft ビルド エンジン (MSBuild) をサポートしています。MSBuild サポートでは、Visual Studio がインストールされていないビルド ラブ環境で InstallShield プロジェクトと共に Visual Studio ソリューションをビルドすることができます。MSBuild は、Visual Studio に依存するビルドを削除するように設計されて拡張ビルド フレームワークです。

### MSBuild と互換性のある XML フォーマット プロジェクト ファイル

InstallShield の Visual Studio との統合では今回から、MSBuild と互換性のある XML フォーマット プロジェクト ファイル (.isproj) が使用されています。これにより、MSBuild は、InstallShield プロジェクトを含む Visual Studio ソリューションをシームレスにビルドすることができます。スタンドアロン環境でソリューションをビルドするには、単純に InstallShield スタンドアロン ビルドをビルド マシンにインストールします。

## ClickOnce サポート

InstallShield に、ClickOnce デプロイメント プロジェクト タイプを追加され、使いやすい軽量アプリケーション デプロイメント メカニズムを提供しています。新しい ClickOnce アシスタントが、適切な情報を提供しながら、プロジェクト作成プロセスの手順を案内します。

## ClickOnce パッケージからの InstallShield プロジェクトと .dim ファイルの作成

InstallShield を使用して、ClickOnce プロジェクトを関連する .dim ファイルを持つ基本の MSI プロジェクトに変換することができます。

## DIFx 2.0 サポート (基本の MSI と InstallScript MSI)

基本の MSI、InstallScript MSI プロジェクトのデバイスドライバ サポートが強化されました。InstallShield では今回より、Driver Install Frameworks for Applications (DIFx) Version 2.0 がサポートされています。この新バージョンにより、署名が付加されていないドライバ ファイルや、ファイルが不足しているドライバをインストールすることができます。また、64 ビット AMD マシンをターゲットすることもできます。さらに、アンインストール時にドライバに関連付けられているバイナリ ファイルを削除することもできます。

## レジストリを使用しない COM 登録 (アプリケーション マニフェスト)

Windows XP では、COM 情報をターゲット システムのレジストリに書く代わりに、アプリケーション マニフェスト ファイルに書き込むことができます。アプリケーション マニフェスト ファイル とは、アプリケーションおよびそれが依存するライブラリに関する情報が保存されている XML ファイルのことです。InstallShield の Reg-Free COM ウィザードを使用して、インストールに含めるレジストリを使用しないマニフェスト ファイルを新規作成、または変更することができます。

## MSI ログ アナライザ

MSI ログ アナライザは、Windows Installer ログ ファイルを元にレポートを作成して、ランタイム時の問題解決をより効率的に行うことができるユーティリティです。この機能は、[ツール] メニューからアクセスできます。

## MSI コマンドライン ビルダ

Windows Installer 関連のタスクを実行するための適切なオプションを持つ複雑なコマンドライン文字列を素早く簡単にビルドすることができます。この機能は、[ツール] メニューからアクセスできます。

## 強化された [SQL スクリプト] ビュー

Windows Installer ベース、および InstallScript ベースのプロジェクトのための [SQL スクリプト] ビューがさらに強化されました。

- このビューでは、SQL 接続のための [詳細] タブに新しく [バッチ セパレータ] 設定

が設けられました。この設定を使って、接続に任意のバッチ セパレータを指定することができます。

- 複数のファイルを選択して、このビューに追加すると、今回より、ファイルは、ファイル拡張子に基づいてアルファベット順に挿入されます。以前のバージョンでは、選択された SQL スクリプト ファイルは、ランダムにプロジェクトに追加されていました。
- すべてのファイル (\*.\*) タイプが、ファイルの種類のリストに追加され、[SQL ファイルの選択] ダイアログ ボックスで表示されるようになりました。これにより、すべてのファイルの種類を参照できます。以前は、.sql ファイルのみ選択可能でした。

## データベース インポート ウィザードの強化機能

データベース インポート ウィザード に、新しい [スクリプト オプション] パネルが追加されました。このパネルを利用して、スクリプトに Microsoft SQL Server version 7.0 との互換性を持たせるかどうかを指定することができます。このパネルの他のオプションでは、説明用ヘッダ、拡張プロパティ、および他の情報をスクリプトに含めるかどうかを指定できます。

## インターネット インフォメーション サービスの強化機能

[インターネット インフォメーション サービス] ビューの新しい [詳細] タブを利用して、ISIISMetaData テーブルを構成できるようになりました。このテーブルには、IIS ビューの他のタブで表示されない IIS 関連のプロパティの値が格納されます。以前のバージョンでは、ISIISMetaData テーブルの変更は、ダイレクト エディタを使用しなければなりませんでした。

また、IIS 認証パスワードとユーザー名に、プロパティを使用することができます。Windows Installer ベースのプロジェクトの場合、プロパティはランタイムに解決されます。InstallScript プロジェクトでは、これらのプロパティは、テキスト代替を通して解決できます。

## Trialware 有効期限日

作成した Trialware に有効期限日を設定して、一定の日付が過ぎた後、製品の評価およびアクティベーションができないようにすることができます。有効期限日は、通常、製品のベータ バージョンに使用されます。たとえば、この有効期限日をベータトライアル期間の最終日に設定するとします。ベータトライアル期間が終了すると、エンドユーザーは、追加のトライアル日数または回数が残っていても、製品の Trialware バージョンを評価したりアクティベートすることができなくなります。

## 新しく提供されたマージ モジュール

InstallShield 11.5 には、Microsoft Rich Textbox Control 6.0 Merge Module が含まれています。

## 印刷可能な .pdf ファイルで配布されている資料

InstallShield の詳しい資料が現在、.pdf ファイルで配布されています。 .pdf ファイルを表示するには、Adobe Reader が必要です。 Adobe Reader は、<http://www.adobe.com> から無料でダウンロードすることができます。

## InstallShield Collaboration のサポート

### InstallShield Collaboration

InstallShield Windows 11.5 のリリースに伴い、マクロヴィジョンは、アプリケーションおよびインストール開発者が開発プロセス全体を通して共同作業（コラボレーション）ができる斬新で画期的な方法、[InstallShield Collaboration](#) を紹介しています。

### デベロッパ インストール マニフェスト (DIM) の参照

InstallShield は、InstallShield Collaboration プラグインを使用して作成されたデベロッパ インストール マニフェスト (DIM) を参照して、開発者によって定義されたインストール要件を自動的に基本の MSI インストール プロジェクトに組み込みます。

## InstallScript の強化機能および新機能

### 強化された InstallScript 機能

アップデートされた InstallShield の InstallScript 機能には今回より、複数のバージョンの .NET Framework および、サービスの開始と停止のために強化された性能を一層使いやすくする新しい構造化メンバをサポートする新規またはアップデートされたシステム変数、関数、および定数が含まれています。

### Windows Installer 3.x オブジェクト

InstallShield では今回より、InstallScript インストールに Windows Installer 3.x オブジェクトを含めることができます。このオブジェクトは、Windows Installer 3.1 エンジンで Windows 2000 SP3 以降が搭載されているプラットフォームに、Windows Installer 2.0 を Windows 9.x、Windows NT4、または Windows 2000 (SP2 またはそれ以前) が搭載されているプラットフォームにインストールします。

### .NET 2.0 Framework オブジェクト

InstallShield では今回より、InstallScript インストールに .NET 2.0 Framework オブジェクトを含めることができます。このオブジェクトは、.NET 共通言語ランタイムをインストールします。.NET 共通言語ランタイムは、オペレーティング システムが Visual Studio .NET アセンブリを実行するために必要です。

### .NET アセンブリの呼び出し

CoCreateObjectDotNet 関数が新しく紹介されました。CoCreateObjectDotNet 関数を使用すると、アセンブリが COM 相互運用性のために登録されていない状態でも、.NET ア

センブリで関数を呼び出すことができます。この関数を使用して作成された各オブジェクトは、単一の .NET アセンブリの単一クラスに関連付けられます。

## DIFx 2.0 のサポート

InstallShield では今回より、InstallScript インストールで Windows Driver Install Frameworks for Applications (DIFx) がサポートされています。このサポートは、DIFx 2.0 がある場合に可能です。DIFx 2.0 は現在、Windows Installer を使用しないでドライバをインストールまたはアンインストールすることができる DIFx API ライブラリを提供しています。

## SdLicenseRtf および SdLicense2Rtf の追加機能

SdLicenseRtf および SdLicense2Rtf は今、64 KB までのデータをサポートしています。以前は、32 KB に限られていました。既存のインストールで、これらのダイアログのダイアログ ソースをカスタマイズしてある場合、この変更は自動的に反映されます。

## 新しい Windows 32 ビット エディション プラットフォーム スイート

新しい Windows 32 ビット エディション プラットフォーム スイートは今回より、[プラットフォーム スイート] ダイアログ ボックスで利用できます。この新しいプラットフォーム スイートは、ファイルが 32 ビット システムに固有である（つまり、64 ビット プラットフォームにはインストール不可能）ことを示すのに使用できます。また今回より、ISOS\_ST\_PROC\_ARCH\_32 と呼ばれる対応する定数も、FeatureFilterOS の nSuites パラメータに使用できます。他のフィルタリング定数と同様、このフラグは、InstallShield で 32 ビット固有とマークされているファイルをインストールする必要があるかどうかを示します。他のフィルタリング定数と同様、この定数は、FEATURE\_INFO\_PLATFORM\_SUITE パラメータを使用して FeatureFileInfo で返すことができます。

## 新しいバージョンの Update Service 再配布可能ファイル

InstallScript インストールは今回より、Update Service が有効にされているインストールで Update Service 4.6 を配布できます。

[トップに戻る](#)

## バグ修正

### Windows Installer プロジェクト

#### 1-116VP9

SQL サポートを含むパッチがターゲット マシンに適用されたときに、エラー 27505 (SQL スクリプト ファイルが開けませんでした) が発生していた問題は修正されました。

#### 1-11ZAJ5

前提条件インストールがサイレント インストールで失敗したときに表示されていたエラーダイアログは、今回より表示されなくなりました。

## 1-11ZGE9

条件が設定されていないセットアップ前提条件は今回より、“インストールに失敗しました” というメッセージを表示しなくなりました。

## 1-142HHT

今回より、.ax ファイルは、“自己登録” に設定されているときも InstallScript MSI および基本の MSI プロジェクトで適切に登録されます。

## 1-14PKCX、1-19ANUX

[一般情報] ビューのバージョンと製品コードが変更されたとき、[アップグレード] ビューのメジャー アップグレード アイテムの [製品バージョン] エリアで選択された値が “すべての以前のバージョン” から “特定範囲のバージョン” へ変わってしまう問題は今回修正されました。

## 1-14Q0UP

ダイアログの動作イベントを編集集中に “インデックスが有効範囲にありません” エラーが発生していた問題は修正されました。

## 1-15GZJ6

インストール中に .NET Framework がダウンロードされているとき、全 URL がダウンロード ステータス ダイアログではっきり見えるようになりました。以前のバージョンでは、ダイアログ内の別のコントロールが原因で URL の一部が遮られていました。

## 1-15GZKQ

ユーザーが製品名およびバージョンをローカライズしているときに、“##ID\_STRING1##” が製品名の場所に表示されていた問題は修正されました。以前のバージョンでは、ある状況でこれが発生していました。

## 1-15O38P

リリース タイプが非圧縮のとき、インストール ファイルはターゲット システムにキャッシュできないため、[リリース] ビューの [Web ダウンロードのキャッシュ] 設定は今回より、非圧縮インストールには無効になっています。以前のバージョンでは、この設定は有効になっていました。この設定が、非圧縮のインストールに対して [はい] に設定されているとき、エラー 1309 がランタイムで発生していました。

## 1-16HBH9

今回より、Visual Studio 統合で、代替ショートカット アイコンを指定できるようになりました。以前は、エラーメッセージが表示されました。

#### 1-16R0H5

Windows Installer の標準アクションと同じ名前のカスタム アクションを作成することは今回より、許可されなくなりました。以前のバージョンでは、標準アクションは、同じ名前のカスタム アクションがあるとき、それをサイレントでオーバーライドしていました。

#### 1-16ZPOJ

プロジェクト アシスタントの [アプリケーションの登録] ページは今回より、.reg ファイルが ".reg ファイルのインポート" リンクを通してインポートされた後、存在するレジストリ キーの表示のためにリフレッシュします。以前のバージョンでは、レジストリ キーは、[アプリケーションの登録] ページがリフレッシュされなかったため、リスト表示されませんでした。

#### 1-17JIX

MsiPackageDiff ツールは今回より、保存されたログ ファイルに Upgrade テーブル エントリを適切に保存します。以前のバージョンでは、エントリは保存されませんでした。

#### 1-182TXD

異なるコンポーネントにある実行可能ファイルへの非アドバタイズ ショートカットを作成すると、そのショートカットは今回より、実行可能ファイルのコンポーネントではなく現在のコンポーネントに追加されます。

#### 1-18GODT

LogonInformation ダイアログでは今回より、メンテナンス モード中に新規ユーザーを作成することができます。以前のバージョンでは、これは行うことができませんでした。

#### 1-19M01L

ビルド プロセスは今回より、適切な 4 桁の LCID ファイル名 (例、0x01009.ini ではなく 0x1009.ini)を検索します。

#### 1-19V3YX

[XML ファイルの変更] ビューの XML ファイルが XML 名前空間の属性 (xmlns) を含むとき、インストールは今回より、属性を作成します。このため、インストールがロールバックされることはありません。以前のバージョンでは、XML ファイルが XML 名前空間属性を含むとき、インストールはランタイムでロールバックし、この属性は作成されませんでした。

#### 1-1AELWS

カスタム アクションが [シーケンス] ビューで挿入されたとき、"コメント" および "条件" フ

フィールドが入れ替わっていた問題は修正されました。以前のバージョンでは、[アクションの挿入] ダイアログ ボックスでコメントと条件を指定すると、コメントは、対応するシーケンス テーブルの“条件” フィールドに格納され、条件は、“コメント” フィールドに格納されていました。

#### 1-1AJOUH

.xml ファイルの変更で、260 を超える文字を含む XPath クエリが、ターゲット マシンで .xml ファイルに要素エントリの複製を作成していた問題は修正されました。 .xml ファイルをインポートすると、常にすべての属性を持つ XML 要素が生成された XPath の一部としてインポートされるため、場合によって XPath 式は、260 を超える文字を含むことがあります。以前のバージョンでは、XPath が 260 を超える文字を含むとき、プロジェクトで作成された要素は常に、ターゲット マシンの XML ファイルに作成されていたため、結果的に、ファイルが既に要素を含んでいる場合、ファイルに同一の要素が複製されました。

#### 1-1AJOUR

.xml ファイルの変更で、“アンインストールで要素を削除する” オプションが選択されていて、生成された XPath クエリが 260 を超える文字を含む場合、要素は、ターゲット マシンでアンインストール中に削除されます。以前のバージョンでは、XPath が 260 を超える文字を含み、“アンインストールで要素を削除する” オプションが選択されていると、XPath は要素に一致せず、その結果アンインストール中に要素を削除しませんでした。

#### 1-1B0ZB7、1-1B0ZAT、IOB-000002494

パス変数機能が、標準パス変数、レジストリ パス変数、環境パス変数が UNC パスによって表されたときに破損していた問題は修正されました。

#### 1-1B1LR8

InstallShield MSDE 2000 オブジェクトは今回より、スタンドアロン ビルドでビルドされたときも、適切にビルドされます。以前のバージョンでは、オブジェクトがスタンドアロン ビルドでビルドされたとき、再配布可能ファイルは、.msi ファイルに適切にストリームされませんでした。

#### 1-1B3TRP

“ビルド時にマージする REG ファイル” オプションを使用したとき、ビルド警告 6204 が発生していた問題は修正されました。また、ビルドされた .msi パッケージに余分なレジストリ エントリが作成される問題も解決されました。

#### 1-1B7UZH

IS\_SQLSERVER\_LIST\_CREATED プロパティに空文字列を設定してリストをリフレッシュするため、SQLBrowse ボタンがクリックされたとき Windows Installer ランタイムがクラッシュしていた問題は修正されました。

## 1-1BAU0P

COM 情報は今回より、128 を超える文字を含むパスで .dll ファイルから適切に抽出されるようになりました。以前のバージョンでは、パスが 128 を超える文字があると、不適切な InProcServer32 エントリが生成されていました。

## 1-1BPQIQ

今回より、インストールで .xml ファイルが作成されているときに、インストールがロールバックすると、.xml ファイルは削除されます。以前のバージョンでは、.xml ファイルは削除されませんでした。

## 1-1BTE6C

InstallScript カスタム アクションは今回より、InstallScript MSI プロジェクトの UI シーケンスでスケジュールできなくなりました。スケジュールしても、ランタイムで失敗するためです。

## 1-1BTW7J

[シーケンス] ビューは今回から、ダイアログ エディタで行った変更を適切に反映します。以前は、変更を確認するにはプロジェクトを一度閉じてから再度開く必要がありました。

## 1-1BZXQA

パッチの無効な以前のイメージが手動で指定されたとき、製品がクラッシュしていた問題は修正されました。

## 1-1BZXRA

[パッチの構成] ビューで行った [MSI コマンドライン引数] 設定への変更は今回より、保存されます。以前のバージョンでは、変更は保存されませんでした。

## 1-1CFHLT

Windows Server 2003 プラットフォームで、基本の MSI インストールから InstallScript カスタム アクションを実行したとき、インストールがクラッシュしていた問題は解決されました。

## 1-1CI4YR

レジストリ キーの既定のデータ値は今回より、レジストリ ファイルのインポート中に適切にインポートされます。

## 1-1CIK05

レジストリ データをコピー アンド ペーストすると、ペーストされたデータはターゲット コンポーネントに付加されます。以前のバージョンでは、レジストリ データがコピー アンド ペ

一ストされたとき、ユーザー インターフェイスでデータが適切にペーストされたことが示されましたが、プロジェクトを閉じて再度開いたときに、すべてのデータは実際、ターゲット コンポーネントではなく元のソース コンポーネントに付加されていました。

## 1-1CL78C

新しいファイルがインストール プロジェクトに追加されたとき、プロジェクトで同じパスにパス変数が既にある場合、その既存のパス変数が使用されます。以前のバージョンでは、この場合、新規のパス変数が常に作成されました。

## 1-1CLZPM

ダイレクト エディタで作成されたタイプ 19 カスタム アクションは今回より、[カスタム アクション] ビューで表示されたとき、正しいアイコンを表示します。

## 1-1CPNK5

TimeRemaining 制御属性のデータは、UIText テーブルで適切に挿入されます。以前のバージョンでは、この制御にかっこがありませんでした。

## 1-1CWIXU

エンドユーザーがコンピュータに非管理者としてログインしたときに、シリアル番号がライセンス データに書き込まれていた問題は修正されました。

## 1-E4NVU

“インストールの準備をしています” ダイアログは今回より、トレードマーク (TM) シンボルが製品名に含まれているとき、それを適切に表示します。

## 1-G1CEX

オートメーション インターフェイス メソッド ISWiRelease.BuildLocation は今回より、パス変数を含まない完全パスを返します。

## 1-GU98D

アポストロフィを含むサブフォルダへのダイナミック リンクは今回より適切に動作します。

## 1-QMV7P

基本の MSI から InstallScript MSI への変換の際、コンポーネントの [言語] 設定に言語が選択されていると、ビルドの警告 -6013 が発生していた問題は解決されました。

## 1-TKJDP

オートメーション インターフェイスで、コンポーネント キー パスがファイル キーに設定され

たとき、“アイテムが見つかりませんでした” エラーが発生していた問題は解決されました。

## 1-YQD71

スペイン語が既にインストールされているときに、.NET Framework 言語パックが、エンドユーザーにそれをインストールするようにプロンプトを表示していた問題は解決されました。以前のバージョンでは、エンドユーザーがスペイン語パックをインストールしてから、スペイン語パックを含むインストールを実行したとき、インストールは、エンドユーザーにスペイン語パックをインストールしますかというメッセージを表示していました。

## 1-Z638U

製品を Update Service ビューから Update Service に登録する際、ODBC エラーが発生していた問題は解決されました。また今回から、英語以外の文字セットも使用できるようになりました。

## IOC-000033371

Windows Installer デバイス設定を含むアプリケーションが、C:\Test などのルートドライブで新規フォルダにインストールされると、今回よりモバイル デバイス .cab ファイルがその場所にコピーまたはインストールされます。以前のバージョンでは、これらのファイルはコピーもインストールもされませんでした。

## IOC-000033640

プロジェクト アシスタントの [インストールのローカリゼーション] ページが灰色表示されていた問題は修正されました。以前のバージョンでは、あるシナリオで、プロジェクト アシスタントの [ローカリゼーション] パネルで表示されたグリッドは消えてしまうか、灰色表示されていました。特に、ALT+TAB を押して、異なるアプリケーションに切り替えてから、再度 ALT+TAB を押して、ユーザー インターフェイスに戻るときにこの問題が発生していました。

## IOC-000033645

プロジェクトに含まれているマージ モジュールに属するカスタム アクションをプロジェクトに挿入したとき、“条件” および “コメント” フィールドが誤って入れ替わっていた問題は修正されました。

## IOC-000034348

複数インストールのトランスフォームは今回より動作します。

## IOC-000035033

ショートカットが作成される際、オートメーション インターフェイスがクラッシュする問題は解決されました。以前のバージョンでは、いくつかのショートカット名だけで、クラッシュし

ていました。

**IOC-000035176**

今回より、IIS がターゲット マシンで無効になっていて、インストールが IIS に関連する変更を含んでいる場合、インストールは、エンドユーザーに IIS が無効になっていることを通知するエラー メッセージを表示します。以前のバージョンでは、エラーメッセージは表示されませんでした。

**IOC-000035276**

[シーケンス] ビューでは今回より、重複したシーケンス番号の作成は許可されなくなりました。

**IOC-000035277**

[シーケンス] ビューでアイテムを右クリックして、[挿入] をクリックすると、今回より選択されたアイテムの下に挿入されたアイテムが追加されます。以前のバージョンでは、新規のアイテムは、選択されたアイテムの上に挿入されていました。

**IOC-000035462**

オートメーション インターフェイス関数 RemoveFile は今回より、ファイルを削除します。以前は、関数が呼び出されると、エラー メッセージが表示されました。

**IOC-000035822**

[セットアップのランチャ] の値が [いいえ] に変更されたとき、[リリース] ビューがクラッシュしていた問題は解決されました。

**IOC-000037788**

ポルトガル語 (ポルトガル) の PatchWelcome ダイアログのテキストには今回より、英語の "Update" の代わりにポルトガル語の "Atualizar" が使用されます。

**IOC-000037964**

基本の MSI プロジェクトのポルトガル語 (ポルトガル) のランタイム ダイアログでは、[次へ] ボタンの翻訳語が一貫していませんでした。一部のダイアログでは、"Sequinte" が使われ、他のダイアログでは "Avançar" が使われていました。この不整合を解決するために、今回より、適切な場所においては、"Sequinte" の代わりに "Avançar" が使われています。

**IOC-000037965**

基本の MSI プロジェクトの文字列テーブルで、文字列 IDS\_ACTIONTEXT\_RegisteringProgIdentifiers の翻訳がドイツ語 (ドイツ)、フランス語 (フ

ランス)、フランス語 (カナダ)、イタリア語 (イタリア)、スペイン語 (標準)、ポルトガル語 (ポルトガル)、ポルトガル語 (ブラジル) で修正されました。

#### IOC-000037966

基本の MSI プロジェクトでは今回より、ポルトガル語 (ポルトガル) の FilesInUse ダイアログにある [再試行] ボタンの翻訳語が、ボタンの大きさに合うように修正されました。

#### IOC-000037967

基本の MSI プロジェクトでは、ポルトガル語 (ポルトガル) とポルトガル語 (ブラジル) の DatabaseFolder ダイアログのボタンには、異なるショートカット キーが付いています。以前のバージョンでは、両方のボタンに同じショートカット キーが付けられていました。

#### IOC-000037974

基本の MSI プロジェクトでは、ドイツ語アクション テキスト IDS\_ACTIONTEXT\_StoppingServices は今回より、“Dienst werden angehalten” ではなく “Dienste werden angehalten” になっています。

#### IOC-000038695

Setup.exe の Windows Installer 3.1 のダウンロード可能なバージョンを最新版にアップデートしました。

#### IOC-000039132

リリース ウィザードの “MSI 再起動を延期する” オプションが、Windows Installer 3.1 が選択されたとき無効になっていた問題は修正されました。

#### IOC-000039133

InstallShield スクリプト エンジン マージ モジュールは、エンジン ファイルをインストールする際、64 ビット エンジン タイプ ライブラリ (ISBEW64.tlb) を登録します。以前のバージョンでは、マージ モジュールは、ISBEW64.tlb を登録しませんでした。この結果、(タイプ ライブラリを予め登録するために) 事前にエンジンをインストールしていなかったシステム上でインストールを実行したとき、失敗していました。

### InstallScript プロジェクト

#### 1-12UC1P

[言語の選択] ダイアログ ボックスは今回より、初期化中に既定の言語を適切に選択します。以前あるケースでは、既定の言語が、ダイアログが初回に表示されたとき選択されているように見えていました。にもかかわらず、方向キーを使用して現在の選択を変更しようとしたとき、制御が適切に初期化されていなかったため、変更することができません

した。

#### 1-16M3YX

UPDATEMODE が、ADDREMOVE または REMOVEONLY がゼロ以外の値のときも、TRUE に設定されていた問題は修正されました。これにより、インストールが [プログラムの追加と削除] から実行されたときにも、“間違ったバージョン” メッセージが表示されなくなりました。また、REMOVEONLY が使用されたときも、インストールはアンインストール UI を表示します。REMOVEONLY がメンテナンス以外のモードで指定されると、以前と同様に無視されますので注意してください。つまり、最初の UI が表示されます。この変更は、OnSetupUpdateMode イベントに対するものです。したがって、この変更は、このイベントを既にオーバーライドしている既存のインストールには、自動的に反映されません。

#### 1-17PVQ1

ダイアログ エディタで SdConfirmRegistration または SdConfirmNewDir ダイアログのサイズを変更したとき、[いいえ] ボタンのサイズが変わってしまっていた問題は修正されました。[いいえ] ボタンのサイズは、[いいえ] ボタンのサイズ同様、変わることはありません。以前のバージョンでは、これらのダイアログの片方または両方のサイズがダイアログ エディタで変更されると、[いいえ] ボタンのサイズも変わってしまっていました。

#### 1-17VVRT

ADDREMOVECOMBINEDBUTTONS は今回より、適切に動作します。つまり、[プログラムの追加と削除] でアプリケーションに対して単一の複合ボタンが得られます。以前のバージョンでは、ADDREMOVECOMBINEDBUTTONS が TRUE に設定されて、ADDREMOVE\_HIDECHANGEOPTION および ADDREMOVE\_HIDEREMOVEOPTION が FALSE に設定されると、1 つではなく 2 つのボタンが表示されました。

#### 1-185Q2H

“アンインストールまたはメンテナンスをしない” オプションが指定されたとき、インストールは、(CreateInstallationInfo で作成される) アプリケーション キーを作成しません。以前のバージョンでは、“アンインストールまたはメンテナンスをしない” オプションがあるインストールも、このキーを作成していました。この変更は、OnMoveData の既定のコードに対するものです。したがって、この変更は、OnMoveData を既にカスタマイズしている既存のインストールには、自動的に反映されません。必要に応じて、すべての場合において OnMoveData をオーバーライドし、CreateInstallationInfo を呼び出すことで、以前の動作を実現することができます。

#### 1-18V1TL

フランス語で実行されているインストールの [キャンセルの確認] ダイアログのテキストの間隔が、今回修正されました。以前のバージョンのダイアログでは、クエスチョン マークの前に余分なスペースが入っていました。

## 1-19700Z

[リリース] ビューは今回より、“単一実行可能ファイルの名前” フィールドで指定されたパス変数の有効性を解決し、確認します。.exe は、パス半数が既に .exe で終わるときのみ、追加されます。また、このビューでは、このフィールドの有効のパスに現在設定されていないパス変数は許可されなくなりました。

## 1-1911ZH

新規言語の追加ウィザードで追加された言語は、今回より、InstallScript プロジェクトでは使用できなくなりました。以前のバージョンでは、InstallScript プロジェクトが開かれると、このウィザードが隠れていました。にもかかわらず、基本の MSI プロジェクトの編集の際に、ユーザー インターフェイスに言語を追加すると、これらの言語は、InstallScript プロジェクトで使用することができました。InstallScript プロジェクトでこれらの言語を選択すると、InstallScript プロジェクトは追加言語の追加をサポートしていないため、予期しない結果が発生していました。

## 1-1A3RMD

ユーザーインターフェイスでは今回より、同じ名前、同じレベルにおける複数機能の作成は許可されなくなりました。以前のバージョンでは、機能の名前を変更した際に円記号で複数の機能の名前を区切った場合、および、機能の新しい名前が既存の機能の名前と同じレベルで一致した場合に、これがユーザー インターフェイスで許可されていました。

## 1-1BA0ZT

エンジンが Disk ファイルを見つけることができなかったときに、単一実行可能ファイルである差分メディア パッケージがクラッシュしていた問題は、解決されました。以前のバージョンでは、Disk 1 ファイルが見つからなかったとき、インストールはクラッシュしていました。

## 1-1BHUXV

ServiceStartService および ServiceStopService は、サービスの開始および停止するとき、以下のようにアップデートされたアルゴリズムを使用します：

1. 呼び出されたとき、関数はまず、サービスの開始または停止を試みます。
2. その後、関数は、サービスの状態を確認します。サービスの状態が、SERVICE\_RUNNING (ServiceStartService の場合) および SERVICE\_STOPPED (ServiceStopService の場合) に一致すると、関数は成功を返します。
3. サービスの状態が SERVICE\_RUNNING/SERVICE\_STOPPED、SERVICE\_START\_PENDING/SERVICE\_STOP\_PENDING または SERVICE\_IS\_PARAMS.nStartServiceWaitCount/SERVICE\_IS\_PARAMS.nStopServiceW で指定された最大待機時間ではない場合、必要な状態に達しなかったため失敗

を返します。

4. サービスの状態が SERVICE\_START\_PENDING/SERVICE\_STOP\_PENDING の場合、インストールは、(最小および最大値の範囲で) サービスで設定された dwWaitHint によって指定された時間の間スリープします。

サービスが、過度に長い dwWaitHint を指定してインストールをハングするのを防ぐために、今回より、以下の SERVICE\_IS\_PARAMS のメンバが提供されています：

- nWaitHintMin— サービスの開始/停止の最小待機カウント (ミリ秒)。ServiceInitParams によって 1000 (1 秒) に初期化されます。
- nWaitHintMax— サービスの開始/停止の最大待機カウント (ミリ秒)。ServiceInitParams によって 10000 (10 秒) に初期化されます。

これらをカスタマイズして、不必要な待機を防ぐこともできます。

5. dwWaitHint 間隔が経過すると、インストールは再度、サービスの状態を確認します。サービスの状態が SERVICE\_RUNNING/SERVICE\_STOPPED に一致すると、関数は成功を返します。
6. サービスの状態がまだ SERVICE\_START\_PENDING/SERVICE\_STOP\_PENDING で、現在の dwCheckPoint が前回のチェックポイントよりも高くない場合、インストールは、サービスの開始/停止が失敗したと仮定します。インストールは、待機を中止し、サービスの現在の状態を確認します。サービスの状態が、SERVICE\_RUNNING/SERVICE\_STOPPED と一致しない場合、失敗が返されます。

サービスの状態がまだ SERVICE\_START\_PENDING/SERVICE\_STOP\_PENDING の場合、インストールは、現在の dwCheckPoint が前回のチェックポイントよりも高いかどうかを確認します。現在の dwCheckPoint が高い場合、インストールは 前回のチェックポイントを現在のチェックポイントに設定し、ステップ 2-6 を繰り返します。

#### 1-1BK91T

[プログラムの追加と削除] からインストールを修復するときも、機能が適切に選択できるようになりました。以前このシナリオでは、新規に選択された機能が修復されていると、インストールの完了後、未インストールの状態 (つまり、アンインストールされた状態) になっていました。

#### 1-1BRRNH

今回より、InstallScript プロジェクトの [SQL スクリプト] ビューで [アンインストール中にスクリプトを実行する] チェック ボックスと [インストール中にスクリプトを実行する] チェック ボックスの両方を選択すると、インストールはスクリプトをアンインストールとインストールの両方で実行します。以前のバージョンでは、両方のチェック ボックスが選択されると、スクリプトはインストール時に実行され、アンインストール時には実行されませんでした。

#### 1-1BY1IB

新規のオブジェクトがコンボ ボックスで選択されたとき、InstallScript オブジェクト インストーラ ウィザードが、チェック ボックスおよびターゲット フォルダの値を以前の値にリセットしていた問題は修正されました。

## 1-MFF4U

InstallShield Professional で作成され、ファイル グループの無効な LinkPath の指定を含む InstallScript プロジェクトのアップグレードは、今回より適切に動作するようになりました。以前のバージョンでは、アップグレードの際に次のエラーが発生していました：エラー 5、無効なプロシージャコール、または、引数。

## 1-QKHC1

InstallScript プロジェクトの [マージ モジュール ホルダ オブジェクト] ダイアログが、修正されました。2 つのボタンが同時に有効になって問題は、解決されました。

## 1-T400D

ユーザー インターフェイスは今回より、インストール先が空白のコンポーネントを含むマージ モジュールも適切に処理するようになりました。(TARGETDIR が使用されず。) 以前、一部のマージ モジュールでは、ビルドで、警告がコンポーネントのファイルに対して出されていました。他では、マージ モジュールのビルド中に、ビルド エラーが発生していました。

## 1-XSJZL

今回より、ダイナミック ファイル リンクは、InstallScript MSI プロジェクトから InstallScript プロジェクトへ適切に移行されます。以前のバージョンでは、適切に移行されませんでした。

## 1-Y1ZKQ

呼び出されたときに、SQLRTConnectDB 関数がクラッシュする問題は、解決されました。

## IOC-000033483

InstallScript エンジンは今より、エンジン ファイルのインストール中に 64 ビット エンジン ファイルが見つからないときも、それらをインストールします。以前のバージョンでは、64 ビット以外のファイルが既に存在する場合、64 ビットファイルはインストールされませんでした。この結果、初期化の後、インストールがクラッシュする原因になっていました。現在唯一知られているこの現象が発生するケースは、InstallShield 11.0 がインストールされている 64 ビット システムです。

## IOC-000033651

マージ モジュール オブジェクトは今より、すべてのケースで、Windows Installer を含まなくなりました。以前のバージョン (InstallShield 11.0) では、オブジェクト ウィザードの指

定した設定に関わらず、Windows Installer はすべてのケースにおいて含められていました。

#### IOC-000033731

1 つまたは複数の差分メディアによってアップデートされたアプリケーションが修復される際、差分メディアからのファイルは今回より、適切な順番（古いメディアから新しいメディア）で適用されます。（つまり、まずベースメディアが適用され、次に一番古い差分メディアが適用され、二番目に古い差分メディアが三番目に適用されるという具合です。）。同じファイルが複数の差分メディアに含まれていて、上書きのプロパティが [常に上書き] に設定されているとき、これが問題になることがありました。差分メディアでインストールされたサポート ファイルがこれに当てはまり、間違った文字列テーブルが使用される原因になることがありました。

以前のリリース同様、（同じ機能またはコンポーネント内に）同じ名前を持つファイルが差分メディアおよびメインのインストールメディアで見つかり、メインインストールメディアからのファイルはまったくインストールされませんので注意してください。ただし、複数差分メディアにあるファイルにはこれは適用しません。複数差分メディアの場合、エンジンは常に、修復中、すべての異なるメディアに存在するファイルのすべてのインスタンスを、適切な順番にインストールしようするためです。

#### IOC-000033745

メンテナンス エクスペリエンスに “アンインストールしない” が設定されているときに、製品の以前のバージョンで作成された InstallScript プロジェクトを変換しようすると常に、エラー “\*\* エラー 5: 無効なプロシージャ コール、または、引数。” が発生し、失敗していました。

#### IOC-000033880

exit と abort ステートメントは今回より、次のイベントから呼び出されたとき、適切にインストールを終了または完了します。OnUninstallingDIFxDriverFile、OnSQLComponentUninstalled、OnXMLComponentUninstalling、OnIISWebServicesExtensionUninstalling、OnIISAppPoolUninstalling、OnIISVRootUninstalling、および OnUninstalledFontFile。以前のバージョンでは、exit または abort がこれらのイベントで呼び出されると、イベントは即座に結果を返していましたが、インストールは継続して次のイベントを実行していました。

#### IOC-000034609

ENABLED\_ISERVICES 値には、メインのインストールの ENABLED\_ISERVICES の値に関わらず、オブジェクトのスクリプトで正確な値が入ります。以前、この値は、メインのインストールとインストールに含まれたオブジェクトで共有されていました。この結果、オブジェクトは、メインのインストールの値を取得していました。このため、自動フォント登録（[製品/オブジェクトのプロパティ] ビューで有効にされます）は、メインのインストールもまたオブジェクトの登録を有効にしていない場合、オブジェクト プロジェクトで動作しませんでした。

**IOC-000034722**

差分メディアは今回から、レジストリで [プログラムの追加と削除] の値 “InstallSource” を設定しません。以前のリリースでは、この値は差分メディアの場所に設定されていました。

**IOC-000035140**

CD-ROM フォルダにある data-as-files ファイルを含む 1 つまたは複数の差分メディアによってアップデートされたアプリケーションの修復は今回より、[プログラムの追加と削除] から実行されても、EnterDisk ダイアログが表示されることはありません。以前のリリースでは、差分メディアがインストールされたとき、CD-ROM フォルダにある data-as-files ファイルは、Disk1 の場所にキャッシュされませんでした。このため、アプリケーションの修復時において、インストールはファイルを見つけることができず、この結果、EnterDisk ダイアログが表示されていました。

**IOC-000035234**

インストールが CD-ROM フォルダにある data-as-files ファイルを含むとき、[プログラムの追加と削除] での、単一実行可能ファイル インストールからインストールされたアプリケーションの修正は、適切に動作します。以前このケースでは、修復時に、インストールが単一実行可能ファイル インストール内のファイルを見つけることができなかったため、無効な CRC ダイアログがファイルの転送中に表示されていました。ソース ファイルが一時 Disk 1 の場所から取得できるため、この問題は初期インストールでは発生しません。このファイルは、この後、修復の際、[プログラムの追加と削除] からは取得できないため、パッケージから取得する必要があります。

**IOC-000035380**

単一の実行可能ファイルが同じ名前異なるフォルダに格納されている複数の Disk1 ファイルを含む場合も、パッケージされた差分メディアは今回より、Disk1 ファイルを適切にキャッシュします。以前のリリースでは、インストールは、同じ名前を持つ追加のファイルの代わりに、パッケージの最初のファイルを該当の名前で複数回インストールしていました。

**IOC-000035476**

古い形式のオブジェクトは今回より、“現在のオブジェクトのみ表示する” が選択されると、[オブジェクト] ビューで非表示になります。以前は、このオプションを選択しても、すべての古い形式のオブジェクトは隠されませんでした。

**IOC-000035477**

メディアのビルドは今回より、属性が変更されたファイルを、差分メディアに含めるための変更されたファイルとして見なしません。以前、ファイルが元のメディアに格納されているファイルの属性と異なる場合、ファイルは差分メディアの含められました。このため、属性以外の変更はなかったファイルも含められる結果になっていました。

## IOC-000035488

InstallScript フレームワークは今回より、非アップデートの修復以外のメンテナンス処理のとき、自動的に [キャンセル] ボタンを無効にします。アップデート、変更、またはアンインストール モードでインストールをキャンセルすると、アプリケーションの一部だけがインストール、アップデート、または修復された状態になる場合があるので、これは大変重要です。

## IOC-000036813

XML 設定のインポート ウィザードは今回より、コメントを含むファイルを適切に処理します。以前、コメントを含む .xml ファイルをインポートすると、必ず失敗していました。

## IOC-000038442

インストールが COM エンジン コンポーネントを作成する適切な特権を持たない場合、InstallScript インストールは今回より、初期化中に、エラー 0x80040708 を (適切なエラーテキストと共に) 表示します。以前、“オブジェクト参照が設定されていません” エラーは、失敗についての追加情報なしに表示されていました。

## Compact プロジェクト

### 1-18FVR9

Compact プロジェクトにデジタル署名ができるようになりました。このオプションは、プロジェクト アシスタントの [インストールのビルド] ページで利用できます。

## IOC-000036350

Compact エンジンで作成された一部のショートカットの作業ディレクトリは今回より、.exe ファイルとして同じ場所に設定されます。以前このケースでは、ショートカットを含むフォルダに設定されていました。

## その他

### 1-12FUFX

SQL Server (バージョン v7.0.623) ヘリモートで接続する際、データベース インポート ウィザードがエラーを表示していた問題は修正されました。以前このケースでは、“DevStudio がリリースされたとき Yukon サーバーが存在していなかったため、現在サポートされていません。” というエラー メッセージを表示していました。

### 1-142GBH

ロックされたプロジェクト ファイルを保存しようとしたとき、[ファイル] メニューの [保存] ボタンまたは [保存] コマンドが無効にされていた問題は修正されました。

## 1-160SKL

データベース インポート ウィザードは今回より、文字  $\mu$  を適切に翻訳します。以前、スクリプトが Unicode を使用するように設定されてあるときも、文字  $\mu$  は ae に変わっていました。

## 1-17XOIO

データベース インポート ウィザードの [概要] パネルにある SQL ログイン パスワード フィールドは今回より、マスクされています。以前、このフィールドは、マスクされていませんでした。このため、このフィールドに入力されたパスワードは、パネルで見えていました。

## 1-18NRH5

ハイフンを含むデータベース名を含む SQL スクリプトにより、スクリプトが実行がされたとき、SQL ランタイム エラーが発生していた問題は修正されました。

## 1-18TOXN

マクロヴィジョンのライセンス サーバーからライセンスを取得する際、ユーザーが経験していた問題は修正されました。

## 1-194IY5

IIS カスタム エラーの設定は今回より、ランタイムで適切に設定されます。以前、[カスタム エラー] タブで行われた変更は、ターゲット マシンで適切に反映されませんでした。

## 1-19594C

最新のセキュリティ アップデートが搭載された Windows XP SP2 プラットフォームで、[ヘルプ] メニューから [フィードバック] コマンドをクリックすると今回より、[フィードバック] ページが適切に表示されます。以前このシナリオでは、このページは、セキュリティ保護により表示されませんでした。

## 1-19Z9TD

データベース インポート ウィザードは今回より、バックアップ ファイルが、読み取り専用になっているために、保存されなかったとき、情報メッセージを表示します。以前は、ウィザードは、“未知のエラー” メッセージを表示していました。

## 1-1ALT0G

今回より、[CommonFilesFolder]¥MergeModules の場所にインストールされたマージ モジュール ファイルは製品のアンインストール時に削除されません。これらのファイルは、製品の各バージョン間で共有されているため、1 つ以上のバージョンの製品がインストールされていることを考慮し、削除されません。

## 1-1C630A

プロジェクト フォルダ (C:\My InstallShield 11 Projects) が削除されて、その後ユーザー インターフェイスが起動されたとき、Windows Installer の自動修復機能が開始されました。この問題を解決するため、InstallShield インストールはこのフォルダを作成しません。代わりに、InstallShield ユーザー インターフェイスがこのフォルダを、必要に応じて作成します。

## 1-1CFHL5

[IIS ディレクトリのセキュリティ] タブにあるユーザー名およびパスワードのプロパティは、各 IIS アイテムに一意になるように保たれています。

## 1-ZF6VE

SQL ランタイム サポートは今回より、プロジェクトに接続があり、SQL スクリプトがない場合、インストールに追加されます。以前、SQL ランタイム サポートは、このような状況下では追加されませんでした。

## IOC-000033590

“IIS アプリケーションの名前” フィールドの既定の値は今回より、Web サイトおよび仮想ディレクトリの場合、“既定のアプリケーション” です。以前、既定値は使用されませんでした。

## IOC-000033744

.NET Framework 再配布可能ファイルおよび言語パックが、スタンドアロン ビルドに追加されました。以前、一部のファイルが存在しなかったため、エラー 6247 がビルド時に発生しました。

## IOC-000034607

Web サイトが Windows Server 2003 を実行しているシステムで起動されたとき、“パラメータが間違っています” エラーが発生していた問題は修正されました。

## IOC-000034901

データベース インポート ウィザードから利用できる [SQL ブラウズ] ダイアログ ボックスは今回より、使用可能なサーバーを一覧表示します。以前、ダイアログ ボックスは、サーバーを一覧表示しませんでした。

## IOC-000036525

[SQL スクリプト エディタ] ウィンドウが、InstallScript エディタ ウィンドウで行われたスクリプト エディタ キーボードの変更を破棄していた問題は修正されました。

IOC-000039140

“トライアル制限のタイプ” の値が [使用回数] に設定されている Trialware を作成してインストールした後、評価版が、初回の使用で有効期限が切れていると報告されていました。この問題は、修正されました。

[トップに戻る](#)

## 既知の問題

既知の問題の全リストは、ナレッジベースの記事「[Q111745](#)」を参照してください。

[トップに戻る](#)